

優 秀 賞

「建設業のイメージと活躍」

愛知県立一宮工業高等学校 建築科 2年  
近 藤 さくら

私は建設業のイメージアップのためには、とにかく知ってもらうことが大事だと思います。建設業と一口に言っても、数え切れないほど種類があります。関わりのない人からすると一番に思いつく職は、現場の仕事だと思います。ですが現場の仕事も、とても沢山あります。私も高校に入ってから「こんなに沢山の仕事があるのだ」と驚きました。

平成二十八年に新潟県建設業協会が行った「学生の建設業に対するイメージ等調査」において、建設業に対するイメージは、一番に「暮らしの為に必要」次いで「男の仕事」が二番目に多く回答されています。また、「建設業に就きたいと思ったことがありますか。」という質問に対し、約九十パーセントの人が「ない」と回答しています。その理由として「自分に関係ない」「体力が必要」「3K(きつい・汚い・危険)」「女性がいなさそう」などの回答が多く挙がりました。「女性がいなさそう」という回答は、女性の少ない社会に足を踏み入れることに不安を感じている人が多いということだと思います。女性も安心して働け、輝ける社会にすることは、建設業全体のイメージアップに繋がると 생각합니다。「体力が必要」という回答は、男性・女性共にこの理由で諦めている人がいるのではないのでしょうか。私も体力に自信がないので初めは不安でしたが、設計など体力の有無があまり影響しない職を目指しています。建設業に良くないイメージを持っている人が多くいることに驚きました。身近にも誤った情報を信じている人もいます。建設業に就きたい者の一人として、女性に対しても男性に対してもイメージアップを図っていきたいです。

2011年3月11日に起った東日本大震災。テレビや新聞では自衛隊の方々の活動が多く取り上げ

られていました。テレビを見ている人は自衛隊が一番活躍したと思っていると思います。実際、私も震災についての本を読むまでは、そう思っていました。ですが本当は被災もしている地元の建設会社が震災当日から被害状況などのパトロール、社員の安否確認や施工現場の被害状況の確認を行っていたのです。中には業務を遂行し社員が逃げ遅れたという話もありました。被災地では、震災当日から数週間、通信手段が途絶えていたため、建設会社が自主的に人命救助や道路啓開を行ったところもありました。自衛隊や警察・消防が被災地に入るまでの二、三日間、地域の建設会社が献身的に最前線で活動していました。自衛隊などが被災地に入ってから、建設会社による瓦礫の撤去は続けられました。こうした作業は、長いところではゴールデンウィーク前まで続けていたそうです。さらに、仮土葬まで地元の建設会社が担当しており、ご遺族の方々が見守る中、手作業で行っていたそうです。また、数ヶ月後、火葬場が稼働を始めると、仮土葬したものを掘り起し、火葬場まで持って行く手配まで行ったそうです。

自らも被災している中、これほどの作業をしていた建設会社の方々は、とても素晴らしいと思います。このような活動が、これまで、ほとんど紹介されていないのは、とても残念です。もっと沢山の人が知ってほしいです。

これからは、建設業に悪いイメージを持っている人に良いところをアピールしていきたいです。そのために、まず自分が建設業に就きます。実際、働いている女性の方に話を聴くと、とても勇気をもらえ、希望を持てます。私もそんな人を目指していきたいです。